

# 特別支援教育教師・障害福祉支援職の障害と支援に関する 理解・知識の習得を促す研修のあり方について

—— ダウン症支援セミナー参加者に対するアンケート調査から ——

和知 真由\*・林 安紀子\*\*・橋本 創一\*\*・大伴 潔\*\*・  
菅野 敦\*\*・江上 尚志\*\*\*・清野 弘子\*\*\*

(2018年11月26日受理)

WACHI, M., HAYASHI, A., HASHIMOTO, S., OTOMO, K., KANNO, A., EGAMI, T. and SEINO, H.; Survey on the Way of Training to Encourage Acquiring Understanding and Knowledge of Disability and Support for Special Support Education Teachers and Disability Welfare Supporter. ISSN 1349-9580

This study examined the effect of training for supporters who contact Down Syndrome. At the seminar, 495 people attended a lecture on Down syndrome. We conducted a questionnaire survey before and after the lecture. As a result, in all questions about understanding and difficulty of Down syndrome, the average value after taking the seminar was lower than before. Participants who took a seminar understood Down syndrome more. And their anxiety about support for Down Syndrome decreased.

KEY WORDS : Supporter Training, Understanding of Disability, Down Syndrome

\* *Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University*

\*\* *Center for the Research and Support of Education Practice, Tokyo Gakugei University*

\*\*\* *Japan Down Syndrome Society*

## 1. はじめに

2014年に障害者の権利に関する条約に批准したことを受け、日本では2016年4月1日より、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以下、「障害者差別解消法」）が施行された。「障害者差別解消法」は、障害を理由とする差別等の権利侵害行為を禁止し、だれも分け隔てなく共生する社会を実現することを目的として制定された。そして、この障害者差別解消法では、行政や事業者に対して障害のある人に合理的配慮を行うことを求めている。合理的配慮の提供のためには、支援者の障害理解教育が必要かつ重要であり、現在までに障害理解や具体的な支援方法に関するセミナーが多く行われている。

ダウン症支援セミナーは、公益財団法人日本ダウン症協会の普及啓発事業の取り組みの一つとして行われているものであり、ダウン症のある人たちに常日頃関わっている障害福祉サービス事業所や施設の職員・支援員、特別支援学校の教員などを対象として行われている研修セミナーである。

ダウン症は、発達遅滞とともに様々な問題や障害特性が指摘されており、呼吸器疾患、肥満、心臓疾患、頸椎異常、消化器疾患、皮膚疾患・アレルギー、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、歯科疾患、てんかんなどの合併症の頻度が高いと言われている（菅野ら、2013）。成人期のダウン症者の特徴としては、「こだわりが強い」「ひきこもり」「情緒不安定」などの精神・神経学的な症状が顕著に出

\* 東京学芸大学大学院教育学研究科

\*\* 東京学芸大学教育実践研究支援センター

\*\*\* 日本ダウン症協会

現する(橋本ら, 2000)。また、急激退行が見られることが多く、ダウン症の心理機構に密接に関連し、加齢を1つの原因として、生涯発達の特定の時期に生じるものであることが推測されている(菅野ら, 2015)。

このような障害に関する特性の理解や知識について研修を行う理解啓発セミナーは、全国各地で多数行われてきているが、セミナーの効果に関する検証をとりあげる研究は数少ない。また、受講することによって、障害に関する知識や理解が深まり、実際の支援につなげることができるという前提が先に立ち、研修の実施のみにとどまっていることが多い。理解・知識の習得は本当になされたのか、どんな効果があったのかが具体的に明らかにされていない。

そこで本研究では、ダウン症支援セミナーの参加者に受講前と受講後にアンケートへの回答を求め、セミナーが参加者のダウン症(障害)に対する知識や理解に影響を与えるのか、ダウン症の特性に関して理解が難しい部分はどのような点なのか、理解や知識の習得を促すためにはどのような工夫が必要なのかを明らかにしたいと考えた。

なお、本研究は、東京学芸大学現職教員推進機構の取り組みの一つであり、日本ダウン症協会の協力を得て行った。

## 2. 方法

### 2.1 対象

2017年8月に東京都、2018年8-9月に東京都・大阪府で行われた計3回のダウン症支援セミナーの参加者495名を対象者とした。

### 2.2 手続き

セミナーの受付時に対象者に対して質問紙を配布し、受講前後で無記名による回答を求め回収した。なお、参加者には個人情報に十分に留意することを伝え、調査への参加を説明し紙面にて確認した。

回収率は、98.4%(487名)であった。

### 2.3 調査内容

質問紙は両面印刷となっており、受講前は表面、受講後は裏面に回答を求めた。主な調査項目は以下の通りである。

受講前は、

- (1) 職業
- (2) 勤務先に関して
  - ・勤務年数

・ダウン症者の担当の有無

・所属先における職員研修実施の有無

#### (3) ダウン症に関する知識や意識について

・ダウン症はほかの障害に比べて大変だと感じるか

・知識や理解に対する問いとして、

- ①原因
- ②合併症
- ③指摘される性格・行動傾向
- ④才能や活躍
- ⑤急激退行や老化

に対して、「1:大変そう思う」「2:少しそう思う」「3:どちらとも言えない」「4:あまりそう思わない」「5:全くそう思わない」の5件法で選択する。

・支援をする上での負担感に対する問いとして、

- ⑥気持ちや行動の理解することは大変だと感じる
- ⑦支援や対応で困っている

に対して、同じく5件法で選択する。

受講後は、

#### (4) ダウン症に関する知識や意識について

・支援の大きさが意識として軽減したか

・①~⑤の理解の程度

・⑥気持ちや行動を理解することの大きさが意識として軽減したか

・⑦支援や対応について具体的な理解ができたかに対する5件法で選択する。

①~⑤に関してはt検定による分析を行った。

#### (5) 今後職員研修を実施したいか

(6) ダウン症のある人を直接担当していて、困っていること(自由記述)

(7) 研修セミナーに関する感想や要望(自由記述)

以上の項目に対して回答を求めた。

### 2.4 セミナーに関して

2017-18年に東京・大阪で行われたダウン症支援セミナーの概要を次に示す。

「ダウン症成人期の支援を考える」というテーマで開催された本セミナーは、1日3コマの講義が行われた。

講義内容は、「ダウン症の障害特性と医療」、「ダウン症者の発達特性と支援システム」、「ダウン症者への支援方法」について、それぞれの領域の専門家が講義を行った。

## 3. 結果

### 3.1 調査対象者について

参加者の職業の内訳は、障害福祉サービス事業所等の支援員が378名(77.6%)と最も多く、続いて看護師・

保健師が25名(5.13%), 教師が22名(4.52%), 療育・リハビリ職員(ST・OT・PT・心理士)が11名(2.26%), 保育士が10名(2.05%), ケースワーカーが5名(1.03%), 団体職員・事務職が4名(0.82%), その他が32名(6.57%)であった。このことから, 本セミナーの参加者は, 成人期のダウン症のある方に普段から関わっている可能性の高い障害福祉サービス事業所等の支援員が多くを占めている点が特徴的である。(図1)

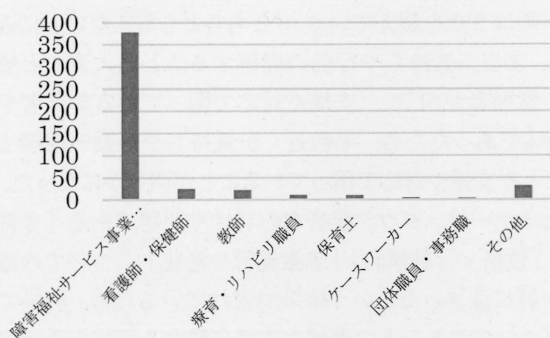


図1 参加者の職業

また, 「現在ダウン症のある方を直接担当していますか」という質問に対して, 398名(84%)が「はい」と回答し, 66名(14%)が「いいえ」, 10名(2%)が「その他」と回答した。(図2)

このことから, 参加者の8割近くがダウン症のある方を日頃から担当していることが明らかとなった。

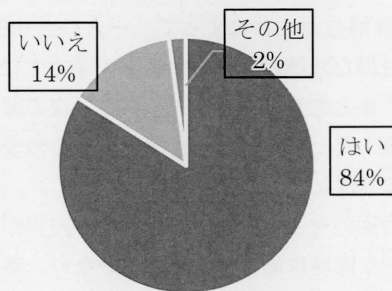


図2 現在ダウン症のある方を直接担当している参加者の割合

一方で, 勤務先で「ダウン症のある人の理解と支援」などのテーマで職員研修が実施されたことはありますかという質問に対しては, 101名が「はい」と回答し, 313名が「いいえ」, 55名が「わからない」, 5名が「その他」と回答した。(図3)

このことから, 普段ダウン症のある方を担当している方が多いにも関わらず, ダウン症のある人の理解や支援に関する研修を受講する機会が少ないことが伺える。

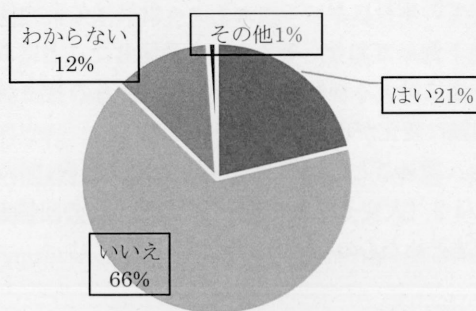


図3 勤務先での職員研修の有無

### 3. 2 ダウン症に関する知識や意識の変化について 3. 2. 1 ダウン症者の支援に対する意識の変化

セミナー前に回答を求めた「ダウン症はほかの障害に比べて大変だと感じるか」という問いに対して, 1または2(大変そう思う, 少しそう思う)と回答した参加者は全体の19.3%であった。このことから参加者の約8割がダウン症者よりも他の障害種のある方の対応が大変だと感じていることが明らかとなった。

しかし, セミナー後に回答を求めた「支援の大変さが意識として軽減したか」という問いに対しては, 1または2(大変そう思う, 少しそう思う)と回答した参加者が全体の71.4%を占めていることから, セミナーを受講することによってダウン症に関する正しい知識を身につけることができ, 支援への不安感や困難さが解消されたことが伺える。

### 3. 2. 2 ダウン症者に関する知識の変化

ダウン症に関する知識や意識について, セミナー受講前と受講後の回答の平均値を比較したものを表1に示す。

t検定の結果, ①～⑤の全ての項目において1%水準で有意差が認められた。

表1 セミナー受講前後の平均値の比較

	平均値(標準偏差)		p値
	セミナー前	セミナー後	
①	1.84 (SD 0.95)	1.51 (SD 0.73)	*
②	2.38 (SD 1.04)	1.65 (SD 0.73)	*
③	2.28 (SD 0.86)	1.55 (SD 0.66)	*
④	2.12 (SD 0.92)	1.76 (SD 0.79)	*
⑤	2.34 (SD 1.00)	1.56 (SD 0.71)	*

\* p<.001

すべての項目において、セミナー受講後の平均値は受講前を下回っており、セミナーを受講したことによってダウン症に対する理解度が高まり、困難さの意識が軽減し、知識に変化が現れたことが伺える。

また、項目ごとにセミナー受講前と受講後において、1または2（大変そう思う、少しそう思う）の回答をとりあげてまとめたものを表2に示す。

表2 ダウン症に関する知識と支援意識の高い群の割合

質問	割合	
	セミナー前	セミナー後
①	81.3%	92.7%
②	63.9%	90.1%
③	66.5%	94.9%
④	71.5%	84.4%
⑤	65.0%	93.9%

特に、大きく変化した項目に着目すると、「合併症の理解」が63.9%から90.1%、「性格・行動傾向の理解」が66.5%から94.9%、「急激退行や老化の理解」が65.0%から93.9%と大きく変化している。

### 3. 2. 3 ダウン症者の支援の困難さに対する意識の変化

セミナー前に回答を求めた、「⑥気持ちや行動の理解することは大変だと感じる」「⑦支援や対応で困っている」という問いに対して、1または2（大変そう思う、少しそう思う）と回答した参加者はそれぞれ⑥61.7%、⑦57.8%であったため、半数近くが気持ちや行動の理解することや支援や対応で困っていることが明らかになった。

しかし、セミナー後に回答を求めた「⑥気持ちや行動の理解をすることの大変さが意識として軽減したか」「⑦支援や対応について具体的な理解ができたか」という問いに対して、1または2（大変そう思う、少しそう思う）と回答した参加者はそれぞれ⑥78.8%、⑦82.4%であったため、参加者の約8割近くが、気持ちや行動の理解に対する困難さが軽減し、支援や対応についての知識が深まったことが明らかになった。

## 4. 考察

本研究の結果から、ダウン症に関する理解度や困難さに関するすべての項目において、セミナー受講後の平均値が受講前を下回っており、全ての項目において1%水準で有意差が認められたことから、ダウン症支援セミナーを受講したことによってダウン症の障害特性に関す

る知識・理解が深まり、セミナーの成果は著しいものがあると考えられる。

また、受講前における「他の障害に比べて支援は大変だと感じる」に1または2で回答した参加者が全体の19.3%であったため、他の障害と比べて、ダウン症者の支援が大変であると感じている者が少なかったと考えられる。

しかし、ダウン症の障害特性や支援において最も重要視すべき「合併症」「急激退行や老化」「性格・行動傾向」の平均は2点を超えている（「どちらとも言えない」に近い）。また、気持ちや行動の理解することは大変だと感じる参加者が61.7%、支援や対応で困っている参加者が57.8%であったため、半数近くが気持ちや行動の理解することや支援や対応で困っていることが明らかになった。

セミナー後、ダウン症特有の特性や問題である「合併症」「性格・行動傾向」「急激退行や老化」についての理解が特に深まったという結果が表れているため、職場でのダウン症のある人の理解や支援に関する研修を受講する機会が少ない参加者たちにとって、ダウン症のある方への支援や配慮について再度考える機会を提供することができたのではないかと考える。また、参加者の約8割近くが、気持ちや行動の理解に対する困難さが軽減し、支援や対応についての知識が深まったことが明らかとなったため、参加者の支援の困難さに対する意識を変化させることができたと考えられる。

さらに、支援の大変さが意識として軽減したと回答した参加者が全体の7割であったことから、ダウン症の障害特性を理解したことによって、一人ひとり異なるが、セミナーで得た知識が支援をする際の手立てに繋がったのではないかと考察する。また、ダウン症の障害に関する理解を得たことによって、支援をする際の安心感につながったのではないかと考えられる。

また、今回のセミナーは理解を深める内容が中心であり、実践的な内容はあまり含まれていない。参加者の自由記述への回答に着目すると、現在担当しているダウン症のある方の対応で困っていることを記述した参加者が多くみられた。また、セミナーに対する要望として、「支援の具体的な事例を聞きたい」という回答が多くみられた。このことから、問題に対する具体的な対応の成功例や回復事例を紹介したり、対応を具体的に考えたりといったような、実践的な内容に関してもセミナーに取り上げていく必要があると考える。

## 文献

- 1) 橋本創一・菅野敦・池田一成・細川かおり・小島道生・菅野和恵・池田由紀江 (2000) ダウン症候群の障害特性, 行動特性ならびに身体特性に関する生涯発達研究. 東京学芸大学紀要 1 部門, 51, 261-269.
- 2) 菅野敦・橋本創一・小島道生 (2015) 成人期ダウン症者の理解とサポート実践プログラム ダウン症者とその家族でつくる豊かな世界. 福村出版.
- 3) 菅野敦・玉井邦夫・橋本創一・小島道生 (2013) ダウン症ハンドブック 改定版—家庭や学校・施設で取り組む療育・教育・支援プログラム—. 日本文化科学社.
- 4) 内閣府HP 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律  
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>